

女流義太夫普及公演

ぎだゆう座

偶数月の

一日・二日は

ぎだゆう座

四月公演

二〇二三年 四月一日(土)・二日(日)

しょううつしあさがおばなし

生写朝顔話

一日

解説 竹本越春

薬売りの段

浄瑠璃 竹本佳之助

三味線 鶴澤津賀花

浜松小屋の段

浄瑠璃 竹本寿々女

三味線 鶴澤三寿々

二日

解説 竹本孝矢

薬売りの段

浄瑠璃 竹本佳之助

三味線 鶴澤津賀花

宿屋の段

浄瑠璃 竹本越里

三味線 鶴澤駒治

大井川の段

浄瑠璃 竹本綾一

三味線 鶴澤弥々

◎ところ お江戸上野広小路亭 TEL03-3833-1789

JR 山手線御徒町駅下車徒歩3分 地下鉄銀座線上野広小路駅 A4 出口すぐ

◎開演 午後6時半(開場6時)

◎入場料 前売り1500円 子ども500円(当日券はございません)

【完全予約制】定員になり次第終了 ※ご予約の際にご入場者全員の氏名、電話番号をお知らせください

◎お申し込み (Email) jyogi.gidayuza@gmail.com

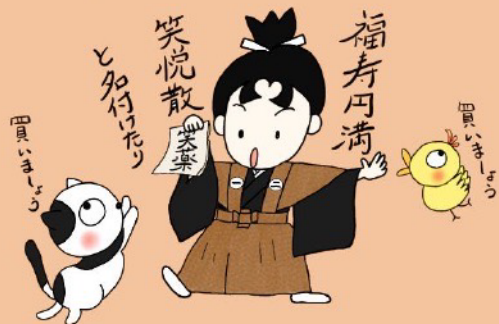
◎お問い合わせ (一社) 義太夫協会 TEL03-6265-1880

<http://www.gidayu.or.jp>

◎主催 ぎだゆう座 ◎共催 永谷商事



★裏面もご覧ください



生写朝顔話

《この前のあらすじ》 深雪は宇治川の蜚狩りで出逢った宮城阿曾次郎という侍に一目惚れをしますが、阿曾次郎は急用で帰国をしなければならず、麗に『露のひぬ間の…』という朝顔の歌を書き、深雪に渡して別れます。深雪は阿曾次郎のことばかり考え、病気になるてしまします。深雪の父秋月弓之助は深雪に駒次次郎左衛門との縁談を薦めます。宮城阿曾次郎が改名して駒沢になつてゐるとは全く知らない深雪は阿曾次郎を追つて家を出奔するのでした。

薬売りの段 浜松城下の小松原、不動尊の御縁日で薬屋が『笑い菓』を売つてゐます。島田の宿戎屋の主人徳右衛門が島田へ帰る道すがら、薬屋から『笑い菓』を買う、チャリ場(滑稽な場面)です。

浜松小屋の段 阿曾次郎を求めさまよい己の不遇を悲しみ、いつしか盲目になつてしまつた深雪。そこへ巡礼姿の乳母浅香が通りかかります。自分を探す浅香の声を聴いて乳母と気づくのですが、深雪と気づかぬ浅香から深雪の行方を尋ねられ、その人は死んでしまつたと答えます。それをきいた浅香は泣きながら、深雪の母が重い病になり、最後まで娘のことを案じて亡くなつたと語ります。深雪は堪えきれず、自分が深雪だと打明け、二人は再会します。喜び、先を急ぐところへ、人買の輪拔吉兵衛が現れ、深雪を連れ去ろうとします。浅香は勇敢に吉兵衛を倒しますが、深手を負うのでした。

宿屋の段 島田の宿屋に泊まつていた駒沢は、深雪と自分しか知らない朝顔の歌を部屋の衝立に見つけます。宿屋の亭主徳右衛門に頼み、朝顔と名乗つてゐる深雪を呼び寄せます。深雪は駒沢の前で琴を弾きながら身の上を語ります。お家乗つ取りを企む悪人一味の岩代と同席しているために自分だと名乗れない駒沢。盲目の深雪は駒沢の芳いの言葉の心に心を残しますがこの場を後にします。駒沢が深雪にお金や目菓を残して宿屋を去つた後、深雪は彼が尋ねる夫だと気づき、駒沢を追いかけます。

大井川の段 雨の中、深雪は大井川までたどり着きますが、駒沢は既に対岸に渡つてしまひ、今は大雨の増水で川を渡ることができません。悲歎にくれた深雪は川に身を投げようと思つますが、そこに深雪の実家秋月家の家来関助と宿屋の徳右衛門が駆け付けます。深雪が乳母浅香の死後、浅香の父を尋ねていることを話すと、徳右衛門はいきなり自らの腹に短刀を突き立て、深雪に自分が浅香の父親であることを伝え、甲子の年の生まれの自分の生き血と秘薬を調合し服用させるとたちまち深雪の両眼が開きます。深雪は徳右衛門の恩に涙し、駒沢との再会を思ふのでした。

《新型コロナウイルス 感染拡大防止のためのお願い》

- * 入場時にはマスクの着用、手指の消毒をお願い致します。
 - * 会場備え付けの**スリッパ**は使用できません。**必要な方はご持参下さい。**
 - * 出演者への面会、差し入れはお控え下さい。
 - * 客席にはお連れ様同士でも間隔をあけてご着席頂き、会話はお控え下さいますようお願い申し上げます。
 - * 開演中も換気のため扉を開放致しますので、外部の音が聞こえる場合がございます。何卒ご了承下さい。
 - * 37.5℃以上の発熱のある方、それ以外でも咳・痰の症状があるなど体調の悪い方は来場をお控え下さい。
- 入場料をお支払い頂いていた方には後日返金させていただきます。